

## 1 単元のデザイン

## 【本単元の目標】

<知識及び技能>ファンタジー構造の特徴を理解することができる。 【文や文章 カ】  
<思考力、判断力、表現力等> 物語の構成や表現の工夫を見つけて、作品のよさを解説することができる。 【読むこと エ 精査・解釈】  
<主体的に学習に取り組む態度> 物語のおもしろさを解説することに意欲をもち、目的をもって読もうとする。

## 【単元観】

本単元は、小学校学習指導要領解説国語編C読むこと（第5学年及び第6学年）エ 精査・解釈「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」を受けて設定したものである。言語活動は、イ「詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。」に対応する。

物語の構成や表現の工夫を考えながら読み、作品のよさについて自分の考えをまとめることをねらいとしている。教材「注文の多い料理店」は二人の紳士の言動を中心に展開されるファンタジー作品である。二人の紳士は山猫軒での注文を自分の都合のいいように解釈し、山猫の罠に見事にはまってしまう愚かな、自分勝手な人物として描かれている。

初読では、二人の紳士に同化し、物語の展開に注視して読んでしまうので、紳士の愚かな人物像にあまり意識が向かない。しかし、再読するときには、戸に書かれた言葉の意味や紳士たちの言動の滑稽さを明らかにしながら、自己中心的で自分勝手な紳士たちの人物像を捉えることができる。

また、ファンタジー構造と中心人物の変容に着目することで、その人物像や作品の主題、作品の伏線などが読み取ることができる。非現実世界で起こった出来事でありながら、紳士たちの紙くずのようにくしゃくしゃになった顔は元に戻ることはない。さらに、見栄を張るために山鳥を買って帰る紳士たちは、顔以外考え方も性格も変わっていない。物語の最後にある「顔だけ」に込められた人間の愚かさや疚しさ、またそれを他人にさらしながら生き続けなければならない紳士たち（人間）を徹底的に風刺する作者の意図やその効果からも、作品のメッセージやおもしろさを考えることができる作品になっている。

## 【児童観】

本学級の児童は、「世界一やかましい音」で、物語の構成をとらえ、中心人物の変容から作品の心（主題）を読み取ろうと学習している。また、中心人物が「どこで」「なぜ」「どのように」変容したかについて、思考ツールを活用し、複数の関係する叙述を基にして、心情を読み取ることも定着しつつある。しかし、テキストの内側（叙述を正確に読む・行間を読む・作品世界を読む）は捉えられるようになってきているが、テキストの外側（読んだことを実生活で活用・内容の吟味）であるメタ認知に関してはまだ指導も含めて定着しているとはいえない。

昨年度1月に実施した廿日市市学力定着状況調査の国語科の「読むこと」（物語の内容を読み取る）についての正答率は65.8%であった。場面の様子を叙述から読み取ることには課題があるといえる。また、複数の叙述を関連付けて中心人物の心情をまとめることはできるようになっているが、相手意識をもって自分の考えを叙述を根拠にしながら文章化することには個人差が大きい。つまり、考えや思いはあっても、精査・解釈してきたことを基に相手を説得したり納得させたりできるだけの文章表現（論理的思考）までは定着していない。

## 【つまずきの要因】

登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えることに課題があることがわかった。これは、第3学年及び第4学年の指導事項である。支援対象児童は、自分の体験に重ね合わせながら主観的に読み、叙述を根拠に気持ちを想像することに困難を要する。人物像や情景などから登場人物の複雑な心情を表現する場面では、語彙不足もあり、自分の思いをまとめることが難しい。交流等では、自分の考えと友達のことを関連付けて考えることができなく、どれが自分の表現したい内容が一番近いのか、また優れた表現がどれなのかを判断できていない。また、経験不足から、「せつなさ」や「悲しみを隠した笑顔」等、行動とは裏腹な心情を、それまでの叙述や伏線から理解することが苦手である。自分が経験したことがない心情については共感することも難しく、登場人物の心情やそこに込められた作品の主題を読み取るまでには至っていない。

## 【支援対象となる児童の実態】

音読については、文章の構成や内容を理解して音声化することに課題があるが、概ね正確に読むことができる。

読書についてはあまり興味がなく、幼年童話を好んで読んでいる。活字だけの読み物にはまだ親しめていない。

読み取ったことをもとに自分の考えを表現することについては、「うれしい」「悲しい」等、直截的な表現はできるが、行間を読むなど深い読みにはつながっていない。

読むことについては、感想をもつことはできるが、初読のあらすじ書き「中心人物が〇〇することによって、□□する話」という物語全体の要約はできていない。

今年度の1学期テストの「読むこと」の通過率は44%で、物語文のみ通過率は67.5%であった。文章の内容を読み取ることにはできているが、描写から心情を読み取ったり、登場人物の変化をまとめたりする問題には答えられていない。とくに、心情を自分の言葉でまとめる問題については無回答であり、何をどのように書けばよいのかが分からないようである。

## 【具体的な手立て】

中心人物の心情を読み取るのに根拠となり得る叙述を指定し、その叙述を関係付けて心情を読み取ることができるようにするための手立てとして思考ツール（クラゲチャート）を活用する。また、参考となる友達の表現を使って自分の表現に生かしたり、繰り返し読んで優れた表現に触れたりするなどして、語彙を質と量の両面から充実させていけるようにする。また、自分の考えを論理的に文章化できるようにするために、定型文を示したり、思考ツールを活用したりするなど、ワークシートの工夫も取り入れる。

## 【放課後等の取組】

音読指導と読書指導を中心に行う。音読指導に関しては、相手意識や必然性を持たせたり、なぜそのような声で読むのか、という根拠を言わせたりしながら読ませる。

## 【通級での指導】

ソーシャルスキルトレーニングとして、「お話しサイコロ」を毎時間行っている。相手の話を傾聴し、その内容に合った質問を考え、発言することで、他者に関心をもち、他者の考えを理解しようとすることができつつある。

**【指導観】**

本単元では、以下の3つに重点を置いて指導をする。

- ①パフォーマンス課題を「この物語がすごい！」～物語のおもしろさのプレゼン大会をしよう～とし、「注文の多い料理店」で学んだことを使って自分の選んだ本のおもしろさをパワーポイント資料で紹介するという学習活動を設定する。図書室に掲示するための司書教諭からの依頼であるという内容にし、児童に学ぶことへの意欲と必然性をもたせるようにする。  
解説文については、中心人物が「変わったこと」と「変わらなかったこと」から読み取れる作品の意図や心（主題）についてまとめる。その際、複数の叙述を関連付けることを通して、考えや根拠を明確にして表現できるようにさせる。
- ②中心人物の変化について、関連する場面だけでなく伏線になっている場面、物語全体から考えることができるように、思考ツールを使って論理的に考えられるようにする。また、自力解決の段階での思考ツールを基にグループで対話し、そこで見つけた複数の叙述をさらに関連づけながら、大きな思考ツールを完成させ、作品の主題に迫れるようにする。
- ③第三次では、本単元で学んだことを活用するために、並行読書で読み進めていた物語について解説文で交流させる。その際には、個人での活動が主になるので、成果物の発表会で終わらないようにある程度物語を限定し、同じ物語を読んでも違う価値観があることに気づいたり、同じ作者に共通する作品の主題について感じたりすることができるようにする。

**2 単元の評価規準**

国語科	資質能力	メタ認知力	・読み手へ意識を向け、構成や展開を考え、表記に気を付けて書くことを通して自分自身の成長に気付いている。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
		読む能力	
イ「詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動」を通じた指導	・ファンタジー構造の特徴を理解することができている。	・物語の構成や表現の工夫を見つけて、作品のよさを解説することができる。(エ)	・物語のおもしろさを解説することに意欲をもち、目的をもって読もうとしている。

**3 教科の指導事項との関連**

**第6学年 国語科(C読むこと:エ 精査・解釈)**

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年
エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像すること。	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

**4 指導と評価の計画(国語 全11時間)**

次	時	学習活動	評価			児童の思考のプロセス (深い学びを実現に向かう児童の姿)	
			知	思	態		
単元前		課題の設定	○教科の評価規準(評価方法) ★資質・能力の評価(評価方法)				
		「この物語がすごい！」～物語のおもしろさのプレゼン大会をしよう～					
第一次	1	<b>課題の設定(国語科)</b> ・これまでの読書生活の中でおもしろいと感じた作品についてイメージし、プレゼン大会に向けての計画を立てる。	○			○「おもしろさ」について出た意見について、「展開のおもしろさ」「中心人物のおもしろさ」等について視点を基に分類している。(発言・ノート)	プレゼンとは何か、プレゼン資料を作るにはどんなことを書けばいいのかな。 浦島太郎は最後にどんでん返しがあるから「展開のおもしろさ」なんだな。桃太郎は完全懲悪の「ストーリーのおもしろさ」があるよ。 桃太郎は、「登場人物の関係性のおもしろさ」もあるね。
	2	<b>情報の収集</b> ・主教材「注文の多い料理店」を通読し、あらすじをまとめ、感想や疑問点、今後の学習課題について話し合う。	○			○初読の感想を交流することで、作品から感じたユーモアの視点を分類し、プレゼン大会という大きな課題を解決するために必要な小さな学習課題を設定している。(発言・ノート)	先生のデモンストレーションを見て、これまでの学習が使えるところはどこかな。また、新たに学ばないといけないことはどこかな。 教材文の〇〇についてはどうか。ここについてみんなで話し合いたいな。
	3	<b>整理・分析</b> ・「中心人物のおもしろさ」という視点で、二人の紳士の人物像を捉える。			エ	○紳士の人物像を考えるための根拠となる叙述を思考ツールを使って関係付けながらまとめている。 ○特徴的な中心人物の設定を、中心人物のおもしろさとしての視点と捉え、単元末のプレゼン資料に生かせるように資料を作成している。(発言・ワークシート) ★主教材でのプレゼン資料を友達との交流を通して、不足している内容等を書き加えている。(ワークシート)	紳士の会話や行動などから、性格がわかるね。意味調べでの「紳士」のイメージとは随分ちがうよ。なぜこのような人物を主人公にしたのかな。
	4	・戸に書かれた注文の言葉や子分の会話を基に、物語に登場しない山猫の親分の人物像を想像することで、「対人物のおもしろさ」を捉える。	○			○戸に書かれた枕詞に注目して、親分の賢さと間抜けさについて読み取ったり、子分の評価に注目したりしながら、対人物の人物像をまとめている。(発言・ワークシート) ★主教材でのプレゼン資料を友達との交流を通して、不足している内容等を書き加えている。(ワークシート)	山猫の会話や行動から性格がわかるね。親分と子分の関係もおもしろいな。 山猫たちがどうやって紳士たちを畏にはめるかもおもしろさの1つだね。扉には2つの意味があるよ。山猫たちは意図して2つの意味にとれる言葉を用意したのかな。 紳士たちは全く気づいていないね。どの扉で畏だと気づくのかな。

	5	・「現実—非現実—現実」の作品構造や戸に書かれた注文の言葉から、「展開のおもしろさ」「しかけのおもしろさ」を捉える。	○	○戸に着目して、文字の色・同音異義語・関係性について読み取ることで、仕掛けのおもしろさを理解している。 (発言・ノート・ワークシート) ○戸の裏と表の注文内容を整理し、山猫と紳士の状況から、しかけのおもしろさを理解している。 (発言・ノート・ワークシート) ○「現実の世界」と「非現実の世界」との境が共通の表現であることを捉えたり、現実の世界に戻ってきてからの紳士の行動を読み取ったりすることで、展開のおもしろさを理解している。 (発言・ノート・ワークシート)	戸の言葉の色にも意味があるね。こんなところにも工夫があるなんておもしろいな。 他にも細かいところしかけがあるかもしれないよ。探してみよう。
	6 本時	<b>まとめ・創造・表現、振り返り</b> ・中心人物の変ったことと変わらなかったことなどから、作品の心(主題)を読み取る。	エ	○紳士の変容や紳士と山猫の相違点から物語全体を関係付けながら作品の心(主題)を読み取り、根拠となる叙述や考えを基にして、論理的にまとめている。 (発言・ノート・ワークシート) ★作品から読み取れる心(主題)について、関係する叙述やこれまでの学習を基に、自分の考えをまとめていく。また、対話を通して自分の考えを吟味し、再構成している。 (ワークシート)	今までの学習だと、中心人物の変容に主題が込められていたよね。だから「顔」が変わったところに作者の意図が隠されているんじゃないかな。 中心人物が変わらなかったところもあるね。これははじめてだよ。ここにも何か意味があるのかな。
	7	・宮沢賢治の生き方や考え方が「注文の多い料理店」にどう表現されているかを考えながら、プレゼン資料を完成させる。	○	○これまでにまとめた人物像や展開のおもしろさ、作品の心(主題)を基に、プレゼン資料を作成している。 (ワークシート)	人物像と作品の心をもとに、相手にわかりやすいプレゼン資料を作ろう。 どんな資料を入れたらいいかな。人物関係図を入れようかな。
第二次	8	<b>新たな課題の設定・情報の収集</b> ・自分で選んだテキスト(本)について、これまでの学習を生かして、「おもしろさ」を基にプレゼン資料を作成する。	エ	○主教材で学んだことを生かして、「おもしろさ」や中心人物の変容から読み取れる主題についてまとめている。 (プレゼン資料)	前回作った資料を生かして、物語のおもしろさを紹介しよう。
	9	<b>整理・分析</b> ・中心人物、対人物の人物像、物語の構成や表現のおもしろさについて読み取ることを通して、作品の心(主題)をプレゼン資料にまとめる。	○	○構成を考えて、プレゼン資料をまとめている。 (プレゼン資料)	プレゼンとは、「キャッチフレーズ」を書いてから、おもしろさについて、作品の心について、自分の考えの3部構成で書くんだってな。使う資料は人物構成図にしようかな。クラゲチャートにしようかな。
	10 11	<b>まとめ・創造・表現、振り返り</b> ・プレゼン資料の中間発表会を行い、修正したり、評価の視点を決めたりする。 ・プレゼン大会を行い、評価しあう。	エ	○グループで中間発表会を行い、お互いのプレゼンが視点に沿った内容で、分かりやすい構成になっているかについて話し合っている。 ○中間発表会で自分のプレゼンの修正点をまとめ、さらに再構成して書き直している。 ★本時までの学びを生かして、自分のプレゼンをモニタリングし、再構成している。 (プレゼン資料)	友達から、もっと興味を引くように、しかけのおもしろさを簡潔に紹介したほうが良いとアドバイスをもらったよ。改善してみよう。 同じ物語でも読む人によって感じ方はそれぞれなんだね。ほくも読んでみたくなったな。

### 目指す児童のゴールイメージ

#### (主教材)「人間の愚かさとは」(キャッチフレーズ)

不思議な世界に迷い込んだ紳士たち、迷い込んだ先は「山猫軒」、戸を開けると次々と注文が…。しかし紳士たちは自分勝手な解釈で、どんどん山猫たちの罠にはまっていきます。しかし、山猫たちも賢いのか間抜けなのか、思惑通り紳士たちを腹に収めることはできません。読者もその展開にはハラハラ、ドキドキ、時にいらいらさえも感じます。(展開やししかけのおもしろさについて)

最後の場面では、紳士たちは現実の世界に戻ることはできますが、「顔」は元には戻りませんでした。私は紳士たちが唯一変化した「顔」に作者の痛烈な皮肉が込められていると思います。紳士たちは外見は小奇麗にしていたけれど、内面は、自分勝手に、わがままです。「顔」はこの紳士たちの内面の現れだと思います。「顔」は隠すことができず、また、意識しなければ自分の顔を見ることはできません。だから、宮沢賢治はこの「顔」を変えたことで、人間は、自分が気づかないうちに、多くの人々に自分の醜態や恥をさらしながら生きているということを伝えたかったのだと思います。

#### (作品の心について)

以上のことから私はこの物語は、自分の弱さや傲慢さを日々振り返り反省しながら真面目に、思いやりをもって生きていかなければならないと宮沢賢治が伝えているのだと思います。山猫軒は誰の前にも現れる恐ろしくも自分を省みる不思議なレストランなのだと思いました。

(自分の考え)

#### 単元後 **まとめ・創造・表現** (総合的な学習の時間「廿日市の魅力をつたえ隊」)

- ・野外活動で体験し、学んだ北広島町と廿日市市を比較し、まとめる。
- ・まとめたことをプレゼン資料にして発表する。

## 5 本時の目標

- ・ 作者がなぜ紳士の顔が元に戻らないという結末にしたのかについて考えることを通して、宮沢賢治が物語に込めたメッセージについて関係する叙述を根拠にして想像し、説明することができる。

【読むこと エ】

6 本時の展開

	学習活動（時間）	<p>◇指導上の留意点 ・予想される児童の反応</p> <p> ◆深い学びを促す教師の手立て</p> <p><b>F U対象児童への教師の手立て</b></p>	<p>評価規準（評価方法）</p> <p>深い学びを実現できた児童の姿</p>
<p>課題の設定</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p> <p>まとめ</p> <p>振り返り</p>	<p>1 めあての確認と見通しをもつ。 ・紳士や山猫の人物像や展開について振り返る。 ・自分の考えを基に、グループで交流する。（5分）</p> <p>4 全体で交流する。（15分） ・グループで出した意見について討議する。</p> <p>5 メッセージについて考える。（10分）</p> <p>・メッセージを交流する。（10分）</p> <p>6 自己の学びを振り返る。（5分）</p>	<p><b>②紳士の顔はなぜ元に戻らなかったのだろう。</b> 最後の文に込められたメッセージを説明しよう。</p> <p>◇現実から非現実までの紳士や山猫の人物像を、扉や展開を基にして顔が元に戻らなかった理由について考えさせる。 ◆主観的な読みにならないように、「なぜそのように読めるのか」という根拠を明らかにさせる。 ◇最後の場面で紳士が変わったことと変わらなかったことを整理させ、なぜ「顔」が元に戻らなかったのかについて、紳士の人物像を基にワークシートに記入させる。 ◇自力解決のワークシートを基に、グループで大きな思考ツールを完成させる。 ◆個人の考えを、児童同士で関連付けながら思考ツールにまとめていくことで、個人のずれ（考え方）に着目し、ずれを生かしながら考えをまとめさせていく。  <b>ただ、グループの意見を羅列させるのではなく、出た意見を精選したり、分類させたりするなどしてまとめを工夫させる。</b> ◆変わらなかったことは、紳士たちの傲慢な態度（内面）、変わったことは紳士たちの「顔」（外見）であることを確認し、紳士たちはこれからどんな生き方をしていくのか、それについて自分はどう思うのか、どのように生きていくべきだと感じたのか、等を視点にして思考ツールに書かせる。グループでまとめた思考ツールを写真に撮り、転送したものを電子黒板で提示して全体で交流できるようにする。 ◇各グループの考えについて、質問や相違点について話合う。 ◆これまで読み取った紳士や山猫の人物像や叙述を基にして考えをまとめさせる。 C 僕たちの班は、「顔」だけ元に戻らなかったわけを紳士たちの内面の表れと考えました。紳士たちは命を大切にしない行動を繰り返し、非現実の世界でも自分勝手な行動を繰り返し、反省することはありませんでした。だから、宮沢賢治はそんな人間の自分勝手さを「顔」に表したのだと思います。 ◇班ごとの顔の変容の意味についてまとめ、関係するキーワードを基に、賢治からのメッセージをまとめる。 T 顔は紳士たちの傲慢で自然や動物を大切にしない心の表れでしたね。では、賢治はこのことから、人は生きていく上で何が大切だとみんなに伝えたいのでしょうか。  <b>中心人物の変容が「作品の心」につながることを想起させ、「顔」の変容について読み取ったキーワードが私たちに何を伝えようとしているのか、何を教えようとしているのかについて考えさせてまとめさせる。また、なぜそう考えたのかについての理由も書かせる。</b></p> <div data-bbox="454 1473 1300 1668" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ「すべての命と心を通わせて」 「顔」は愚かな人間の性格の表れだと思います、だから紳士が命の大切さを大切について考えない限り、「顔」は元に戻らないと思います。よって、賢治からのメッセージは、お互いを思いやる心があれば、どんな高価な洋服も宝石もたいして必要なものではありません。人間を本当に幸せにするものは、外見ではなく「心」なんだと伝えなかったのだと思います。</p> </div> <p>◇一人一人が本時の学びを価値付け、次時の学びにつなぐことができるように振り返りの視点を提示する。</p> <div data-bbox="454 1747 1257 1877" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【振り返りの視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを通して変わった自分の考え</li> <li>・友達の考えのよさや自分の考えに生かしたい表現</li> <li>・メッセージから自分の生活を振り返る</li> </ul> </div> <p> <b>本時の学びを通して自分の考えの広がりや深まりを実感させることができるよう、自分の考えがどのように変わったのかを順序立てて確認させたり、参考になった友達の考えを説明させたりする。</b></p>	<p>【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紳士の変容や紳士と山猫の相違点から物語全体を関係付けながら作品の心(主題)を読み取り、根拠となる叙述や考えを基にして、論理的にまとめていく。</li> </ul> <p>(発言・ワークシート)</p> <p>【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品から読み取れる心(主題)について、関係する叙述やこれまでの学習を基に、自分の考えをまとめていく。また、対話を通して自分の考えを吟味し、再構成していく。</li> </ul> <p>(発言・ワークシート)</p>
<p>今日の学習から、人として生きていくには自然、動物そして人間同士が支え合って生きていかなければならないと感じました。これからは、自分も紳士のように傲慢になることなく、他者を思いやり命を大切に生きていきたいです。また、これから物語を読むときにも、作品のおもしろさや作者からのメッセージを考えるというゴールに向かって中心人物の変化を読み取ってみたいですね。</p>			